

世界ロングディスタンス選手権 レースレポート

長崎県トライアスロン協会 深江鉄兵

大会概要

大会名：ITU 世界ロングディスタンストライアスロン選手権

開催地：カナダ・ペンティクトン

開催日：2017年8月27日（日）

距離：スイム 3km、バイク 120km、ラン 30km

天候：晴れ（水温 21.7°C・気温 18.6°C）

8月23日（水）

7:30 に佐世保を出発し一路福岡空港へ向かう。今回はオフィシャルツアーを利用せず、私が出発ツアーコンダクターを務めることになった。幾分の不安を抱えつつも佐世保から選手7名付き添い1名の計8名でカナダ・ペンティクトンを目指す。福岡を飛び立ち中部国際セントレア空港に到着。名古屋名物の味噌カツ定食で腹ごしらえを済ませ、約9時間15分のフライトでバンクーバー入り。入国審査の後、国内線へ乗り継ぎ現地時間の8月23日（水）13:30 ペンティクトンに到着する。エアカナダ国内線の荷室用量が足りず4台の自転車がバンクーバー空港に置き去りになったが、翌日宿泊先まで届けてくれるということで了承。信じるしかない。

空港で2台のレンタカーを手配後、初めての右側通行に戸惑いながらも地元の大型スーパーへ買い出しに行く。物価は高いが量はカナディアンサイズ。数日分の食料を買い込み宿泊先のAPEX マウンテンリゾートへ向かう。ここは標高1700m、市街地から約40kmのスキーリゾート地。スキー客用のロッジはオフシーズンのため安価で宿泊できる。宿に到着後、それぞれの寝床でしばし休憩。夜はチームメンバーの手料理で乾杯し長旅の疲れを癒す。

8月24日（木）

8:00 に起床し周辺を軽くジョグ。雄大な自然とリスやミーヤキヤットなどの小動物、放し飼いの牛の多さに驚きながらも、清々しい朝が迎えられた。これで16時間の時差ボケも解消できたようだ。しかし標高が高いた



め気温は低く、走り出すとすぐに息切れをする。

後に心配していたバイク 4 台も無事に到着。バイク組立を済ませ、片道 40 分かけて今大会のメイン会場へ向かう。エントリーを済ませ EXPO でショッピングを楽しみ近くのパスタ屋さんで昼食をとった。

ペンティクトン空港でレンタカー1台を返却後、約 30km のバイク練習を行った。気温は高いが湿度が低いためか、汗は出ないけど喉が異常に乾く。コース途中では野生の鹿に 2 度遭遇した。練習後、近くのホテルのトランクルームにバイクを預けて宿にもどる。

8月25日（金）

午前中は行きつけのショッピングモールでお買い物。少ない予算で数多くのお土産を選定するのも一苦勞である。午後からはスイム試泳を行い湖の感触を確かめた。夕方はジャパンチームの写真撮影会とパスタパーティーを楽しみ帰宅。



8月26日（土）

朝から最終調整のランニングを行い、昼からジャパンチームミーティングに参加。その後トランジションバック及びバイクを預け、レース前日の最終確認を行った。宿に戻り日本から持参したレトルトご飯と味噌汁で夕食を済ませ 20 時に床につくが、なかなか寝付けず 22 時頃就寝。

8月27日（日）

2:30 起床、ロングレース前のルーティーンを済ませ、宿を 3:45 に出発。トランジションオープン 4:45 に会場入りしバイクセッティングを行う。

早朝は長袖を着ていても肌寒いため、早々にウェットスーツに身を包む。長崎の選手団の周りには自然とジャパンチームが集まってくる。6:00 に試泳のため入水、6:25 ウェーブスタートの位置に並ぶ。スタートラインに立てた喜びと感動がこみ上げてきた。

6:35 On Your Mark

SWIM 3km (1 周回) 52:00

ベタ風の湖面に向かって勢いよく飛び込んだ。遠浅の砂浜が続くためドルフィンで 30m ほど沖へ向かう。多少バトルに巻き込まれながらも、200m くらいでペースがつかめた。淡水

で浮力があまりないが波もなく案外泳ぎやすい。第1ブイをターンしたところで進行方向前方から朝日が昇り始め、眩しくて第2ブイが確認できない。ここで真っ直ぐ泳いでいる選手を見つけ左後方に寄り添いながら先を目指す。ペースもピッタリだったためそのまま並泳。ほぼ目標どおりのタイムでスイムアップ。



BIKE 120km (25 km + 47.5 km×2 周回) 3:29:13

スイム上がり時点での気温は約 22℃ (体感)、身体を温めるために少しオーバーペース気味で序盤は引っ張る。慣れないキープライトを保ちながらハイウェイ区間を Ave38km で突き進む。しかし、ディスクホイールで武装した外国人選手に次々とパスされ正直動揺したが、世界のアスリートのレベルの高さを実感することができた。湖周辺を 2 周回。日本では味わうことができない雄大なロケーションが目の前に広がっている。40 km 過ぎからの急な上り坂や、周りの景色に惑わされて感覚がつかめない幽霊坂、舗装の悪いアスファルトに苦戦しながらも巡航ペースをキープする。2 周回目に突入し、だんだん脚は重くなってきたが条件はみんな同じ。そう言い聞かせ平常心を保ちながらバイクアップ。この時点で日本人 2 位であることを知らされる。



補給 ウィダーイン 1 本
ウィダーイン+MUSASHI+水 1 本 (ボトル)
CCD+クエン酸入りドリンク 1 本 (ボトル)
マグオンジェル
ソイジョイ 1 本
バナナバー 1 本
スポーツ羊羹 1 本
水

RUN 30km (10km×3 周回) 2:36:27

10km を 3 周回、ペンティクトンのメインストリートを中心としたフラットコース。走り初めは脚が重かったが、徐々にペースを掴め、最初の 10km を 47 分で入る。沿道からの声援も多く、日本語も飛び交っている。「日本頑張っ！」の声援に対して思わず「Thank you!」と返してしまう。5 日間の海外生活で少しカブレてるようだ。

2 周回目も気持ちよく走っていたが、15km 地点で同じチームメンバーにパスされる。密か

にライバル心を抱いていたがランの実力と日頃の練習量は数倍上。ここで気持ちを切り替えこのレースを存分に楽しむことにした。他の日本人選手にも数人抜かされたが気にしない。いや、そのスピードで走れない。すれ違うジャパンチームメンバーや沿道の日本人に声をかけながら3周回目をエンジョイする。終盤はこのレースが終わってしまうことに寂しさを感じながらも、参加できた喜びと感謝の気持ちを今一度噛み締めながらゴールテープを空に掲げた。



補給 マグオン1本
スポーツドリンク
コーラ・水

トータル 7:04:26
総合 162/821位
年代別 33/65位



ゴール後はジャパンチームメンバーが集まり5\$のクラフトビアーで乾杯。それぞれの視点でレースを振り返り感想を語り合った。アワードパーティーでは2名の日本人エイジ選手が表彰台上がった。

宿に戻り、チームメンバー全員の完走を祝しスパークリングワインで乾杯。楽しい宴は夜中まで続いた。



8月28日(月)

8:00 出発でメイン会場周辺に出向き喫茶店でモーニング。レンタカーをもう1台手配しバイクをピックアップする。宿に戻りバイク梱包を済ませ、全員でトレッキングに向かう。目指すはAPEXマウンテンリゾートの頂上標高2270m。道なき道を登り続け6人が山頂にたどり着いた。レースの翌日で身体にダメージが残っていたが、どこまでも続く山並みを一望できる絶景スポットにたどり着いたときは疲れのことなど忘れていた。

大自然を堪能したあと、夕食をとるためワイナリーが併設されたレストランへ向かった。するところも絶景スポット。ペンティクトンの町並み、スイム会場となったオカナガン湖。そのはるか遠くに沈む夕日、そしてテーブルに並ぶ豪華な料理やおいしいワイン。とても贅沢な気分を味わえた。



8月29日（火）

カナダとのお別れの日。9:00にペンティクトン空港に到着。出国検査場に大型のX線装置がないため、バイクの梱包を全てバラして人力でチェックされる。全員で45分ほどかかり検査終了。帰りの飛行機にはバイクも全て積み込むことができた。

バンクーバー空港でお土産を買い、楽しかった日々を惜しみながら10時間のフライトで中部セントレア空港に到着。名古屋コーチンの親子丼を一気にかき込み、最終目的地福岡空港へ8月30日（水）19:55到着。車2台に別れ家路につく。途中、金立サービスエリアに立ち寄りチーム長崎の解団式を執り行い22:30佐世保に到着した。

2年前、チームの有志数名で世界大会に行こうと目標を掲げ、昨年のバラモンキングで権利を獲得。たくさんの方々のご支援で夢のような経験ができました。お世話していただいた方、応援していただいた方、一緒にレースを楽しんだ方、ありがとうございました。心より感謝申し上げます。